

国語科学習指導案

日 時 令和6年 8月30日(金) 4校時
対 象 1年1組 計29名

1 単元名・題材名 「字のない葉書」

2 本時の目標(2/3時)

- ・父親の言動や描写から「私」の父に対する心情を読み取ることができる。

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

- ・父親の言動や描写から筆者の心情を捉えるために、グループでの交流をふまえて個人の考えを深める。

4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入 5 分	①前時でまとめた前半場面の父親の人柄について確認する。	・前半部分のワークシート1で父親の人柄を確認する。	・前時のワークシート①
展 開	めあて 父親の言動や描写から「私」の父に対する心情を読み取ろう。		◎父親の言動部分に着目して読むことを確認させる。
25 分	②後半部分を音読させる。 ③一人読みさせて父親の人柄に関係する箇所と人柄をまとめさせる。 ④グループになって意見を交流してまとめさせる。	・後半部分を音読する。 ・ワークシート2にまとめる。(個)【ワークシート】 ・理由を述べながら意見を交流してまとめる。(グループ)【小黒板・パソコン】	○人柄を表す箇所を見つけられるようにさせる。 ○交流の場で、互いの考えを尊重しながらまとめさせる。 ◆個人の意見をグループで共有してまとめることで考えを深めている。
ま と め 15 分	まとめ 父親の言動や描写から「私」の父に対する心情を発表しよう。 ⑤グループごとに発表させる。 ⑥本時の学習を振り返り父親の人柄について感想を書かせる。	・グループごとに発表する。 ・本時の学習を振り返り父親の人柄について感想を書く。	◎自分たちだけのグループにこだわらずに、他のグループの意見も参考にしながら父親の人柄について感想を書かせる。

5 評 価

- ・父親の描写をもとに「私」の父に対する心情をとらえることができる。(思考・判断・表現)【ワークシート・小黒板・パソコン】

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

- ・言語活動を通して考えや思いを深め、「話す」「聞く」「書く力」「読む力」を育てるための指導法の工夫。

(1) 「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・前時の既習事項と本時の授業の流れを板書にまとめたので、生徒は見通しをもって授業に臨むことができ、生徒の意欲喚起につながった。
- ・グループ活動の役割分担を明確にしたので全員が活動に参加でき、互いに「めあて」を確認しながら「まとめ」の学習ができた。

【課題】

- ・ロイロノートでまとめることに時間がかかり、「ふりかえり」の時間が不十分になった。ワークシートとのバランスを考えながら授業の組み立てが必要だと感じた。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・グループで話し合う前の個の学習時間で、具体的に考える時間を設けたので理解が深まった。
- ・自分の意見とグループの意見を融合させながらのワークシートを作成したので協働的な学びにつながった。
- ・思考ツールで考えを共有したので、個で考えたものがグループ活動に反映しやすかった。

【課題】

- ・ロイロノートの思考ツールを活用して発表したけど、ICTの操作に時間がかかり、対話的な場面が少なかった。考えを深めるための対話的な学び合いができるような端末の有効活用の仕方を模索する必要がある。

英語科学習指導案

日 時 令和6年12月19日(木) 2校時
対 象 1年1組 計30名

1 単元名・題材名 **Goal** 身近にいるすてきな人を紹介しよう

2 本時の目標(3/3時)

- ・三人称単数現在形を用いて、好きな人や物について紹介する英文を書くことができる。
- ・気持ちを込めて、発表することができる。

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

- ・聞き手に伝わるように、気持ちを込めて表現し発表する。相互に評価し合いながら、安心感ある雰囲気の中でより良い発表を行う。
- ・ICTを活用し、わかりやすく伝える。

4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入 15 分	Small Talk ・生徒同士の会話 前時の復習 ① AI ドリルで文法の復習 ②重要表現の練習	・英語の質問に尋ねたり答えたりする。 ・レベルを自分で選択して復習する。 ・ペアで練習・確認を行う。	○明るい雰囲気で活動し、学習活動への意欲を持たせる。 ◎既習文法の用法を理解しているか確認する。 ○わからない所を教え合う
展 開 25 分	めあて 三人称単数現在形を使って、好きな人や物を英語で発表しよう。 3. 発表練習 4. グループ発表 5. 発表内容確認 6. 発表評価 ・個人 ・グループ	・個人で発表練習をする。 ・グループになって、発表を行う。 ・それぞれの発表の内容について確認する(三単現の-s など) ・発表の評価をする。 ・感想を伝える。	◎自己の目標を確認する。 ◎本番の発表と同じように練習を行うよう確認する。 ○伝えたいという気持ちをもって表現する。また、聞き手も受容的・共感的態度で話しやすい雰囲気作りにつとめる。 ◆三人称単数現在形の形、意味、用法を理解し、適切に用いることができるか。 ◆既習事項を使って、自分の気持ちを伝えている。【知・技・思・表・主】(観察・ワークシート)

ま と め ・ 振 り 返 り 10 分	まとめと振り返り		
	三人称単数現在形を使って、好きな人や物を英語で発表することができたか。	振り返りシート ・ 自己評価を記入する。	◆ 自己の目標が達成されているか振り返る。

5 評 価

- ・ 三人称単数現在形を用いて、好きな人や物について紹介する英文を書くことができたか。(知・技)
- ・ 気持ちを込めて、発表することができたか。(思・判・表)

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

・既習事項を活用し、目的・場面・状況に応じて、自分の考えや気持ちを表現する力を高める指導法の工夫

（１）「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、「好きなものや人を選ぶ」という学習課題に設定した。活動がスムーズに行われるように基本表現を示し、練習を行ってから個人に投げかけ、苦手な生徒も活動できるよう工夫した。生徒は、グループ内の発表にも真剣に取り組んでいた。

【課題】

- ・「まとめ」では、2～3人をモデルとし、全体発表してポイントを押さえたほうがよいと感じた。また、「ふりかえり」の時間と端末を用いての全体的な学習の成果や、自己評価の確認が足りなかった。

（２）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・個別の学習と、ペア学習を組み合わせ、段階をふんで活動できた。また、AIドリルを活用し、既習事項・基礎的内容の確認を行うことができた。
- ・「好きな人やもの」の英作文では、校外の友人やユーチューバー、キャラクター等、画像等を貼り付けている生徒もいて、楽しんで授業に取り組んみ、生徒それぞれの個性が感じられた。

【課題】

- ・表現力を高めるために、小さなステップで英文を作る練習を行って、少しずつレベルを上げていく課程も必要だと感じた。また会話のやり取り活動では、語彙や表現、文法の間違いに対する指導が丁寧に行えなかったので、課題が残った。

社会科学学習指導案

日 時 令和6年10月8日(火) 4校時
対 象 3年1組 計37名

1 単元名・題材名 「自由権 自由に生きる権利」

2 本時の目標 (3/6時)

自由権とはどのような権利であるか、写真資料から様々な自由があることを体系的に理解する。

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入 10 分	① 資料1を提示し、発問をする。	・ワークシートにまとめる。	・中国における人権侵害に着目させる。 ・資料1の解説を説明する。
展 開 20 分	めあて 自由権とはどのような権利であり、日本国憲法でどのように保障されているのか。 ② ワークシートに教科書を読み取って、重要語句を記入させる。 ③ 資料3について、指名する。 ④ 「精神・身体・経済活動」について資料2・3などを提示して説明する。	・教科書を読み取って、ワークシートに記入する。 ・資料3について、発表する。	◎資料3の解説の説明をする。
ま と め 20 分	まとめ 自由権が保障されることが重要な理由を説明しよう。 ⑤ 教科書「みんなのチャレンジ」の活動に取り組みさせる。 ⑥ 本時の学習を振り返らせ、「チェック」と「トライ」に取り組みさせる。	・(1)・(2)は個人で取り組み、(3)・(4)はグループで話し合っ て発表する。	◎グループで話し合いができるように支援する。 ◆三つの自由権に分類できている。

5 評 価

自由権にはどのような権利があるか、本文の読み取りを通して理解できる。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

・地理、歴史、公民の各事象について、課題意識をもって自主的に思考し、自分の意見を形成する指導法の工夫

(1) 「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・教科書【資料】の投影や、ワークシートの活用ができた。
- ・普段の授業スタイルが決まっているため、調べ学習では見通しがもって取り組むことができた。
- ・導入で教科書の写真を引用し、「自由」ということの興味関心を喚起できた。
- ・教科書の重要語句を抜き出すのに役立つワークシートで、生徒は主体的に教科書を活用できた。

【課題】

- ・授業の進行は、スクリーンでの提示が中心となっているが、組合せの工夫が必要。また、教師の説明時間の割合が高く、グループ等で確認したり、話し合わせたりする場面を盛り込む必要を感じた。また、「まとめ」「ふりかえり」の時間も確保が必要であると思った。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・1人1台端末によるロイロノートを活用し、個々の考えの共有の仕方や、話し合い活動への展開につなげ効果が高まった。
- ・書画カメラ（プロジェクター）を資料の提示、板書、調べ学習の確認、発表など、多様な場面で活用できた。
- ・個々で、教科書を読み取る時間があることが個別最適な学びになった。個人＋グループで確認にすると読み取りが苦手な生徒の補助になった。
- ・ICT機器の活用方法は振り返りの場面に効果的だった。

【課題】

- ・めあてを黒板の中に板書して残しておいた方がまとめとの一体化が分かりやすかったのではないかと。書画カメラを使用したか、教科書データのPDFをロイロノート貼り付けた方がやや画質がよくなる。

理科学習指導案

日 時 令和6年10月18日（金）2校時

対 象 1年1組 計30名

1 単元名 光の性質

2 本時の目標（5／10時）

既習事項を活用することや班員と協働することに進んで取り組み、身長の半分の大きさの鏡で全身が映る理由を説明することができる。

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

- ・日常生活や社会に関連した自分事として考えることができる課題設定
- ・ロイロノートの共有ノートを活用した他の班との考えの交流

4 本時の指導過程

（本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する）

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入	1. 問題提示		
	160 cm の人の全身を映すためにはどれくらいの大きさの鏡が必要か。		
15 分	2. 結果の予想	・ 160cm ・ 100cm ・ 80cm ・ 小さくても離れれば映る。	○自分の予想を必ずもたせる（ロイロノートの提出機能）。
	3. 実験	・ 階段の踊り場の姿見で、身長 の半分の大きさで全身が映るこ とを確認する。	◎鏡から離れても鏡に映る範 囲が変わらないことは手鏡を 使って証明する。
展 開	めあて		◎考えをもてない生徒には、 光の反射についての既習事項 を想起させる。活用できそう な内容を探させる。
	身長半分の大きさの鏡で全身が映る理由を説明しよう。		
	4. 個人思考（理解確認）	・ 自分の考えをもつ。	
20 分	5. 班活動（理解深化）	・ 班で考えを共有し、ロイロノ ートの共有ノートにまとめる。 ・ 他の班の共有ノートを見て、 考えを取り入れようとする。	◆他者の意見を取り入れよう としているか。 ◆既習事項を活用しようとし ているか。 ○共有ノートで他の班の考え 方を見る。
	6. 全体発表	・ 班の考えを発表する。	
ま と め ・ 振 り 返 り 10 分	7. まとめ ・ 発表された内容の補足を行い ながら、まとめを行う。		◎トイレや化粧台の鏡を想起 させ、本時の学習内容が日常 生活や社会に関連しているこ とを説明する。
	8. 振り返り	・ 文章記述する。 【振り返りの視点】 ・ どのように試行錯誤したか （他者との関わり、問題解決 の糸口） ・ 授業前との考えの変化	◆本時で学んだことを実感で きているか（授業前の自分と の変容、班活動での協働によ る成果など）

5 評 価 【主体的に学習に取り組む態度】～行動観察、ワークシート記述

- ・ 既習事項を活用することや班員と協働することに進んで取り組んでいたか。
- ・ 本時の活動での学びを実感できたか。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

理科の見方・考え方を働かせ、科学的に課題を解決する力を高める指導法の工夫

(1) 「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・課題設定が身近にある鏡に関するもので、生徒の好奇心を引き出す内容であった。
- ・実験結果を予想し、実際に体験する場面は生徒が主体的に課題に取り組むきっかけになった。
- ・鏡にテープを貼るという工夫が良かった。
- ・共有ノートを用いた班での発表を通して、対話的な学びが実現した。
- ・前時までの光の反射の既習事項を局所的に捉えた補助発問があり、生徒が主体的に考え、グループ活動に臨んでいた。

【課題】

- ・グループ活動が開始してからの教師の発言が少し多かった。開始する前に全員で既習事項を確認するなど、全員が見通しをもった状態で課題解決を開始できるようにする。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・導入で自分の予想を必ずもたせるよう、端末を効果的に活用した。
- ・実験の状況を全員が見られなかったり、実験結果の受けとめ方が人によって異なったりしていたが、写真を撮って全員で確認したことで、生徒の関心が高まった。
- ・話し合いの前に自分の考えをまとめるための個人思考の時間が確保された。
- ・作図している生徒への声掛けが、作業への動機付けになった。
- ・グループ活動での学び合いでは、それぞれの考えを尊重する姿勢が見られ、生徒が多様な意見に耳を傾けながらも議論する場面があった。

【課題】

- ・ICTの活用として、ロイロノートを使用して、リアルタイムで他のグループの考察を見られるようになっていたのは、思考のヒントになっていたと思う一方で、最終のまとめをする際は、スクリーンの画面を生徒全体に画面共有した方が良かったと感じた。

音樂科學習指導案

日 時 令和6年12月18日(水) 4校時

対 象 1 年 1 組 計 3 0 名

- 1 単元名・題材名 「魔王」(シューベルト作曲 ゲーテ作詞)
- 2 本時の目標(2/3時)
 - ・「魔王」の詩の内容と関わらせながら、登場人物の音楽的特徴を音色や強弱、旋律、リズムから感じ取ることができる
- 3 校内研修との関わり
 - 「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～
 - ・ロイロノートで登場人物ごとに分類した音源カードを、各自で聞き比べ、並べ替える
 - ・グループで意見交流をし、自分の考えを見直す
- 4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導入 10分	1. 前時の確認をさせる 2. 本時の活動について説明する	・一回鑑賞し、登場人物やあらすじなどについて確認する	
展開 30分	めあて 登場人物の心情の変化と音楽の特徴の関わりを感じ取ろう 3. 人物ごとに詩と音源カードをまとめた登場人物カードを配布し、詩と合う音源カードを予想し組み合わせさせる 4. グループで意見交流させる 5. 正解を示す 6. それぞれの人物の心情の変化と音楽の特徴の関わりについて、気づいたことをカードに記入させる 7. カードを提出させ、紹介する	・それぞれの人物の詩を読み、心情の変化を想像する ・音源カードを聴き、詩と組み合わせる ・意見交流する ・一度自分の音源カードを見直し、変更や聴き直しをする ・正しい順番を知る ・人物の心情の変化と音楽の特徴の関わりについて、気づいたことをカードに記入する ・カードを提出する	◎考えるヒントを前時の振り返りシートから紹介する ○ロイロノートとイヤホン使用 ◎音楽の特徴となる音色や強弱、旋律、リズムについて説明する ○意見交流し、自分のカードを見直す ◆登場人物の心情の変化による音楽の特徴を、音色や強弱、旋律、リズムから感じ取ることができる
まとめ・振り返り 10分	まとめ・振り返り 登場人物の心情が音色や強弱、旋律、リズムの変化で表現されていることを感じ取ることができた 8. 全ての音源カードを並び替え、鑑賞させる 9. 振り返りを記入する	・曲を通して一度鑑賞する ・カードに振り返りを記入する	

- 5 評 価
- ・「魔王」の詩の内容と関わらせながら、登場人物の音楽的特徴を音色や強弱、旋律、リズムから感じ取ることができる

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

・学習意欲を喚起し、既習事項を生かして自分の思いを表現したり演奏したりするための場面設定や方法の工夫

（１）「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・前時の生徒の振り返りコメントを取り上げた課題設定をすることで、生徒の学ぶ意欲の喚起につながった。
- ・前時の確認をしたり鑑賞する際の視点を示したりすることで、本時の課題に取り組みやすくなった。
- ・個とグループの活動が「めあて」と「まとめ」につながるように設定したことで、グループでの意見交換がしやすくなった。

【課題】

- ・対話的な活動が充実できるよう。学習内容の精選や時間設定の工夫の必要性を感じた。

（２）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・ロイロノートを使って、個別に音源カードを選択し並べ替えることができたので、個の能力に応じて活動することができた。
- ・グループで意見交換をすることで、もう一度自分のカードを見直して考え直し、音源を聞き直す様子が見られた。

【課題】

- ・登場人物の心情と、音色や旋律などの鑑賞する際の視点との関りについて、個でもう少し考える時間があればと思った。また、最後に時間が足りなくなった。一斉に鑑賞するよりも、ICTの活用によって、個に応じた活動ができたが、その分、個による活動内容の差が見られた。学習活動の精選をすることで、より深く考え、協働的な学びができたと思った。

保健体育科学学習指導案

日 時 令和6年9月20日（金）2校時
対 象 3年1組 計37名

1 単元名・題材名 ダンス

2 本時の目標（9／9時）

一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にして踊ったり、鑑賞したりすることができる。

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

4 本時の指導過程

（本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する）

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入 5 分	1 あいさつ 2 欠席者や見学者を確認 3 めあての提示と説明 4 本時の確認	・整列、あいさつ ・鑑賞態度の確認。 ・評価についての確認。	◎鑑賞態度（拍手など）が大切だということを話す。
展 開 30 分	めあて お互いの作品を見せ合い、認め合おう。 5 グループ練習 6 ダンス発表・鑑賞 7 個人評価	・グループで最終確認を行う。 ・決められた順番で、ダンスを発表する。 ・各グループのダンスを鑑賞する。 ・個人評価をつける。 ・グループで話し合い、各グループの評価をつける。	◎評価ポイントが押さえられているか確認する。 ○アドバイスをを行う。 ◆一人一人の違い、表現、役割を認めている。 （主体的に学習に取り組む態度）
ま と め ・ 振 り 返 り 10 分	まとめ or 振り返り 一人一人の違いに応じた表現や役割が大切であることに気づく。 8 グループでの評価。 9 振り返り 10 あいさつ	・グループで話し合い、各グループの評価をつける。 ・体育ファイル、ワークシートに記入させる。	◎タブレットでの評価がスムーズに行われているか確認する。

5 評 価

交流や発表の仕方や、一人一人の違いに応じた表現や役割を理解し、楽しさや喜びを味わうことができる。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

- ・課題に応じた運動に取り組み、共に学び合う生徒を育てるための指導法の工夫

(1) 「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・ダンスを題材とし、生徒の意欲が高まるよう、前時までに練習時間を十分に確保し、生徒の主体性を育む授業づくりが進めることができた。
- ・本時は、「めあて」の確認、ダンス発表、「まとめ」の展開に無理がなく、生徒に学習の見通しをもたせることができた。
- ・「めあて」を明確に示したことで、生徒が積極的に活動に取り組んでいた。
- ・相互鑑賞を通して主体的で対話的な学びが実現した。

【課題】

- ・導入の際、鑑賞態度の説明が長くなり、時間超過してしまった。「一人一人の違いに応じた表現や役割を大切に踊る」点を強調して指導するべきであった。
- ・個とグループ、それぞれの振り返りを実施したが、2つの内容が混同し、曖昧になっていた。より明確な指示や工夫が必要に感じた。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・多様で異なった表現を認め合う雰囲気づくりができた。
- ・互いのダンスを賞賛する態度が見られ、良い雰囲気の中で協働的な学びを成立させることができた。
- ・どのグループもチームワークがよく、互いに助け合ったり、補い合ったりしている様子が見られた。また、それぞれのチームの個性がよく出ており、手拍子などで、互いに認め合おうという雰囲気づくりできた。
- ・タブレットを活用して、互いを認め合う場面を設定していたため、生徒はその場で、仲間の意見を聞くことができた。

【課題】

- ・タブレット端末を効果的に活用し、仲間と情報を共有するとともに、生徒一人一人が課題解決に取り組む姿勢を伸ばす工夫が必要と感じた。
- ・導入部分で説明時間が長かったため、対話的な学び合いの時間の設定が短く、協働的な学びを深めることができなかった。

技術科学習指導案

日 時 令和6年5月31日（金）4校時 短縮

対 象 1年1組 男子15 女子15 計30名

1 題材名 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決

2 本時の目標（1／5時） 双方向性のあるコンテンツの操作を体験する。

3 校内研修との関わり

令和6年度研究主題：主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

二人一組で協働して伝え合い、主体的・対話的な学びを試みる。

（二人一組でタブレット端末を使用することにより、回線の遅延をも回避する。）

4 本時の指導過程

段階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導入 5分	1 課題1の実演 ・どちらが本物の人間の顔でしょうか。 ・ワークシートを配る。 ・隣の席同士で組になり、教室の偶数列の人のタブレット端末を準備しましょう。	・本物だと思う方に手を挙げる。 ・二人で一組になり、ワークシートに記名する。 ・タブレット端末にログインする。	◎T2はワークシートの記入を支援する。 ◎欠席者に配慮して、使用するタブレット端末を指定する。
展開 35分	めあて 2 AIによるクイズを体験しよう。 ・ワークシートに予想を記入しよう。 ・結果を○×で記録しよう。 3 二人で協力し、課題を解決する手順を考えよう。 ○わかりやすく、合理的な手順を考えよう。 ・「 」番ができた組は手を挙げてください。	双方向性のあるコンテンツを利用してみよう ・Which Face Is Real? を検索する。 ・二人で相談し、予測と結果をワークシートに記入する。 ・アルゴリズム2を検索する。 ○課題を解決するための手順を二人で考える。 ・プログラミングを進め、ワークシートに記入する。 ・いくつかのプログラミングを演示する。	◆二人で相談して取り組んでいるか。（観察）③主体的に学習に取り組む態度 ◎反復処理などを実演して、操作方法を知らせる。 ◆課題を解決するための手順を考えようとしているか。（観察・ワークシート） ②思考・判断・表現
振り返り 5分	まとめ 4 今日の授業でわかったことや、思ったことを書こう。 ・振り返りを発表しよう。	・ワークシートに振り返りを記入する。 ・生徒の発表を聞く。	◎タブレット端末を閉じる。 ◎巡回して進み具合を確認する。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を豊かにするための課題解決へ見通しをもたせる
指導法の工夫

（１）「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・生徒の興味・関心を引くコンテンツを用いて、学習意欲を高めることができた。
- ・「ＡＩの面白さ」「プログラミングの必要性」を自然に感じ取れるよう配慮できた。

【課題】

- ・めあてが、「手を挙げよう」となっており、授業内容と異なっていた。
- ・ワークシートを含めて、どのような学習が進むのか、見通しのもたせ方が不十分だった。
- ・ＡＩとプログラミングがどう関連するのか、なぜ重要なのかを取り上げ、生徒の意欲を喚起する場面があれば、さらに学習の効果が高まった
- ・授業において、教師による学習内容の「まとめ」が示されなかったため、本時で「何を学んだのか」が漠然としていた。

（２）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・ペアになることで互いに目当ての確認ができた。互いに自分の意見を述べて、様々な情報から正解をだしていた。
- ・１人１台端末をペアで利用させる工夫があり、学習意欲を高めるために、効果的だった。
- ・難しい課題は、全体で共有したことで、生徒の思考が深まった。

【課題】

- ・「個」で学習する場面が、乏しかったので、自分の考えをもたせる時間を確保し、ペア学習と組み合わせることが大切であると感じた。
- ・個人で１台のタブレットを操作してうまくいかなかったら対話を通して解決する学習形態だったら、どうなっていたか興味に残り、提案性のある授業であった。

家庭科学学習指導案

日 時 令和6年12月12日(木) 3・4校時
対 象 1年 1組 計30名

1 単元名・題材名 「手作りバターを作ろう」

2 本時の目標 (1・2/2時)

3 校内研修との関わり

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

・バター作りを通して、加工食品の特徴、バターの栄養について理解することができる。また、協力しながら調理実習に取り組み、手作りの良さを知ることができる。

4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導 入 30 分	・本時の流れについて説明する。 ・バターについての質問をする。 ・加工食品の特徴について説明する。 ・バターの栄養や歴史について説明する。	・バターの原料や思い浮かぶ料理や場面を相談しながら、発表する。(グループ) ・ワークシート1にまとめる。(個)【ワークシート】 ・ワークシート1にまとめる。(個)【ワークシート】	・ワークシートを配布する。 ◎身近な料理や場面をスライドを使用して、思い出せ興味関心を高めさせる。 ○バターや加工食品の特徴について捉えられるようにする。 ◆加工食品の特徴、バターの栄養や歴史について理解することができたか。
展 開 70 分	めあて 班で協力してバターを作り、手作りの良さを感じてみよう。 ・バターの作り方について説明する。 ・バター作りの準備をさせる。 ・バター作りをさせる。 ・後片付けをさせる。 ・試食をさせる。 ①最初に市販のバターを食べ、次に手作りバターを食べ、食べ比べた時に気づいたことや感じたことをプリントにまとめさせる。	・ワークシート2を見ながら説明を聞く。(個)【ワークシート】 ・準備をする。 ・協力してバター作りを開始する。(グループ) ・後片付けをする。 ・試食する。 - 市販のバターとできたてのバターを食べ比べた時に気づいたことや感じたことをプリントにまとめる。(個)【ワークシート】	◎スライドを使用して説明をする。 ◆協力しながらバター作りに取り組むことができたか。 ◎食感の違いや風味などに着目して試食することを助言する。

5 評価

- ・バター作りを通して、加工食品の特徴、バターの栄養や歴史について理解することができる。(知識・技能)
 - ・協力しながらバター作りに取り組むことができる。(主体的な学習態度)
 - ・手作りの良さを感じることができ、ワークシートにまとめることができる。(思考・判断・表現)
- 【ワークシート】

	②塩や砂糖、ココアパウダーを加えて試食させ、気づいたことや感じたことをプリントにまとめさせる。 ③焼いたパンやクラッカーにつけて食べさせる。	・塩や砂糖、ココアパウダーを加えて試食したときに気づいたことや感じたことをプリントにまとめる。(個)【ワークシート】 ・焼いたパンやクラッカーにつけて食べる。	◎そのまま食べたときと食品につけて食べたときの違いに着目して試食することを助言する。 ○班員で味や実習中のことを話題にしながら楽しく食べさせる。
まとめ	まとめ 班で協力して、バターを作ることができ、手作りの良さを感じることができた。		
10分	・まとめをプリントに記入する。 ・感想を発表させる。	・ワークシート2にバター作りの感想と自己評価を記入する。(個)【ワークシート】 ・班の代表者1人が発表する。(グループ)	◎個人の感想をクラスで共有することで、実習をより振り返ることができる。 ◆手作りの良さを感じることができ、ワークシートにまとめることができたか。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活を豊かにするための課題解決へ見通しをもたせる指導法の工夫

（１）「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・生徒の生活に身近なバターを課題に設定したことで、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・本時の流れや実習中の約束ごとなどを黒板に明示したことで、生徒自身が見通しを持ち、約束ごとなどがグループの中で確認、共有しやすく主体性を高めることができた。
- ・バター作りの前に、バターに関しての知識を学習したことで、バター作りの意欲がより高められた。

【課題】

- ・ふり返りやまとめの発表をするところまでいけなかったため、生徒それぞれの感想が共有できなかった。

（２）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・板書や作業の準備をしっかりと行ったことが、個・ペア・集団どの学習形態でも生徒の学び合う場面につながった。
- ・実物投影機やスライドを効果的に使うことができた。

【課題】

- ・バターについての解説などをもう少しコンパクトにして、生徒の作業時間を多く確保することが、深い学びにより近づくと感じた。

総合学習指導案

日 時 令和6年12月10日(火) 3校時
対 象 サポートルーム 2年2名

1 単元名・題材名 総合的な学習「2年箱庭づくりのまとめ」

2 本時の目標 (3/3時)

- ・「2年箱庭づくり」を通して学んだことを、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。

3 校内研修との関わり

- 「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～
- ・ロイロノートを活用して、体験内容や調べたことを順序立てて発表する。
 - ・お互いの発表を聞き、感想を交換し合う。

4 本時の指導過程

(本時の指導過程のなかにも研究主題との関わりを工夫した点「○」を明記する)

階	教師の働きかけ	学 習 活 動	◎支援・留意点 ◆評価 ○工夫場面
導入 5分	①前時までのスライド制作の進捗状況を確認する。 ②本時のめあてと流れを確認する。	・お互いの進捗状況を確認する。 ・本時のめあてと流れを確認し、発表の目標を立てる。	・ロイロノート ・ワークシート ・チェックリスト ○個々に発表の目標を具体的に立てる。
展開 35分	めあて 「2年箱庭づくり」の体験発表をしよう。 ③スライド・原稿を完成させる。 ④発表に向けて、練習をさせる。 ⑤発表させる。 ⑥感想を交換させる。	・スライドと原稿の完成を目指して、制作する。 ・発表練習をする。 ・スライドの操作をしながら、発表する。 ・お互いに感想を交換する。	◎スライドや原稿制作の支援をする。 ◎個々にリハーサルをしてアドバイスする。 ○目標を意識して発表する。 ◆感想を交換できたか。
振り返り 10分	振り返り ⑦本時の振り返りを共有する。	・振り返りシート	◆振り返りシートの記入ができたか。

5 評 価

「2年箱庭づくり」を通して学んだことを、わかりやすくプレゼンテーションすることができたか。

授業公開を終えて

【令和年6度の研究主題】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の在り方」
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する工夫～

【教科研究テーマ】

体験的・探究的・問題解決的な学習を通して、自他の良さを認め合い、主体的・協働的に取り組む指導法の工夫

(1) 「主体的・対話的」を高める授業づくりの工夫についての成果と課題。

- ・生徒の学ぶ意欲の喚起のための学習課題の設定の工夫。
- ・個やグループなどでめあてを確認し、見通しをもっているかどうかを見取る。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にした授業作り。

【成果】

- ・体験したばかりの題材を取り上げることで、学ぶ意欲を喚起する学習課題が設定された。
- ・導入でめあてと流れが確認され、授業に見通しをもたせることができた。めあてや流れは黒板に提示されることで明確になった。
- ・プレゼンテーションの制作から発表までを全て自分で行うことが動機付けとなり、生徒は主体的に取り組んだ。
- ・発表後に感想を求めることで対話的な活動となった。
- ・導入で個人の目標を確認し、黒板に授業の流れを提示していることで「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の一貫性があり、安心して授業に取り組めた。
- ・総合的な学習の時間における自身の活動を、ICT機器を活用しプレゼンするという、興味や意欲を十分にもてる学習内容だった。画像等もふんだんに用いられ、ICT機器の使い方や効果的な伝え方についても、学びを深めていた。今後、生徒が必要となる力が養われる学習であった。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の指導過程が明確で、生徒に、しっかりと見通しをもたせ指導を進めていた。

【課題】

- ・総合的な学習の体験を題材にして、授業を展開したが、生徒が前向きに懸命に取り組む姿が見られた。これからも、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明確にし、生徒が学ぶ喚起のための学習題材や課題の工夫をしていきたい。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化についての成果と課題。

- ・理解を深めるための有効な手段としてペア等、小集団での学び合いを取り入れる。
- ・話し合いの前後に自分の考えをまとめるための個の時間を確保する。
- ・授業において、多様で異なった意見も認め合う雰囲気づくりをする。
- ・考えを深めるための有効な手段として、対話的な学び合いの場面を設定する。
- ・ICTや端末を効果的に活用する。

【成果】

- ・スライドを完成させることで、自分の考えをまとめる時間が確保された。
- ・スライドはテレビを使うことで明瞭だった。
- ・提出箱に提出することで、振り返りを視覚的に共有することができた。
- ・発表までの下準備(写真、シンキングツール、見やすいスライド等)の時間がしっかり確保されていたと思われる内容であった。
- ・ICTをフルに活用していた内容で生徒の操作もスムーズであり、普段からの授業の取り組みが感じられた。
- ・人数が少ない分、個に対する指導が手厚く充実していた。
- ・個人発表(個別最適な学び)と互いの感想(協働的な学び)が行われていた。
- ・本時の発表までに活動の記録や、発表材料の収集、機器操作の指導等が丁寧に進められ、学習が積み重ねられていることが伺われた。発表内容や態度も、十分に練習時間が確保され、目標達成に寄与していた。

【課題】

- ・スライド制作の時間には、お互いにロイロノートの操作の仕方を教え合う場面も見られ、個別最適な学びと協働的な学びの一体化ができていたと思われる。私自身がロイロノートの活用の研究をさらに進めたいと考えている。